

学校法人 東放学園

東放学園映画専門学校 殿

2024年度 学校関係者評価報告書

東放学園映画専門学校

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

【教育・学校運営に関する有識者/委員長】

月野木 隆行 学校法人東放学園 元理事
学校法人東放学園 東放学園専門学校 元校長
学校法人東放学園 東放学園映画専門学校 元校長

【就職先及び関連業界関係者】

浅井 千瑞 (株) メディアミックス・ジャパン 制作演出部部長 プロデューサー
加藤 亮一 (株) studio K

【高等学校教諭】

竹内 一仁 東京都立小岩高等学校 2学年主任 主幹教諭

【卒業生】

反町 恵里菜 2016 年小説創作科 卒業生

2. 事務局

松島 司 校長
蒲田 直樹 副校長
柳田 晃寿 教務教育部 部長
青柳 高広 学務管理部 部長
袴田 誠 学務管理部 (学校評価委員)

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

2024年10月26日(土) 15:00～17:30 東放学園映画専門学校 3M4教室

4. 学校関係者評価結果

※別紙のとおり

4. 学校関係者評価結果

【評定内容結果】

- 4：適切に対応している。課題の発見に積極的で、今後更に向上させるための意欲がある。
- 3：ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2：対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1：全く対応しておらず不適切である。学校の方針から見直す必要がある。

I. 2023年度重点目標と達成計画について

- 重点目標1 学校デザインの見直し
- 重点目標2 カリキュラムの見直し
- 重点目標3 中途退学者の防止
- 重点目標4 進路・就職率の向上

コ メ ン ト	評定
・目標達成状況の成果が上がらず、今後の課題として挙げている事項が多い。 ・「カリキュラムの見直し」が校名変更に対してなのか、新学科に対してなのか、不明瞭である。 ・(事務局より)外部の方にも伝わり易く記述する様に改善する。教育課程編成委員会等の意見や講師定年を踏まえて既存学科、新学科共にカリキュラムの見直しをしている。 ・「中途退学者の防止」において、前年度の中途退学者リストからの原因分析や個人面談強化、学務管理部からのサポート強化、留学生への別途個人面談等の支援体制は評価出来る。	4

II. 評価項目別取組状況について

基準1 教育理念・目的・育人人材像

コ メ ン ト	評定
・時代とともに業界が求める人材像も変化していくことがあり、企業と連携を深めて適宜見直す必要もある。 ・発想・表現力において、個が突出した学生の評価については、評価者によって是非が分かれるため、評価者の多様化も必要だと思う。引き続き、現役クリエイターや講師の招致に力を入れてもらいたい。 ・(事務局より)学修評価において、複数講師での対応をしているが、一部対応していないカリキュラムもある。引き続き検討していきたい。	4

基準2 学校運営

コ メ ン ト	評定
・校名変更を機に一丸となり、校長が中心になり主体性を持って運営してもらいたい。 ・事業計画に関連した運営方針を明確化し、教職員全体の研修会やサイトで周知しているので教職員が理解しやすい。同時に顧客のニーズに柔軟に対応できる教育機関として体制を作り、さらにリスク対策も進めている事は評価出来る。	4

基準3 教育活動

コ メ ン ト	評 定
・教員の量・質の充実を期待する。 ・業界全体が変化している事が実感される。各専門分野の必要スキルを現状の変化に合わせて柔軟に対応してもらいたい。業界現場サイドから現状について伝えられる機会もあれば良い。 ・今年度も授業評価アンケートを全教科での実施に至ってなく、今後の課題としている。インストラクションスキルの向上のための研修に関しても前年同様に充分とは言えないという判断をされている。今後の研修の充実を期待する。 ・在校生のアンケート実施について、学科担当教員と講師間では、フィードバックの実現に限界があると思う。関連業界などの協力体制は今後必要になると感じる。 ・(事務局より)後期または来年度より学生の自己目標達成度を入れた授業評価アンケートを実施する予定である。 ・資格や免許の取得については、専門性が高い資格と汎用性が高い資格で、不合格者へのフォローの有無を判断すべきだと思う。	3

基準4 学修成果

コ メ ン ト	評 定
・学修成果としての在校生、卒業生の作品や情報の発信方法を幅広く考えていくべきである。制作に至った経緯等の情報も入れてアピールした方が良い。在校生への学修成果のフィードバックを強化して欲しい。 ・エンターテインメントの分野では卒業生や在校生の社会的活躍や評価の把握が重要であるが、情報共有ができていないケースが見受けられる。 ・卒業生情報の把握について、ある程度関係性ができていないと母校に報告する、という流れにならないと思う。匿名性が高いので、そういった卒業生を見つけるために、受賞者情報等の収集も大事だが、在学中のフォローも重要だと思う。	3

基準5 学生支援

コ メ ン ト	評 定
・個別対応に力を入れていることに評価をしたい。 ・独自の奨学金制度も充実されているが、より一層華やかなアピールとバックアップ告知をしても良いかと思う。 ・(事務局より)現在、独自奨学金制度内容見直しを検討している。 ・中途退学者の多い学科の1年次の個人面接必須、複数名での対応をしていることは評価できる。 ・カウンセリングについて、カウンセラーの来校日や申し込みについてもオンラインで対応ができるといいと思う。 ・カウンセリングだとハードルが高く感じる場合もあるので、オフィスアワー的に気軽に相談出来る体制も必要ではないか。 ・就職活動の形式は、報告書形式にするとハードルが上がると思う。授業評価アンケートなどと同様、Googleformでの報告なども検討してみてもいいのではないかな。	4

基準6 教育環境

コ メ ン ト	評 定
・業界との関係を密にして、環境を整備して欲しい。 ・学外実習は授業科目として実施し評価も示しており定着している。インターンシップに関してはその概念が多様化しているので企業側と十分に協議して実施されているようなので評価できる。校舎設備に関しても19年が経過しているので計画的に進めていくことは重要である。 ・小説創作科は、ソーシャルゲームのストーリーを見て、文章を書くことに興味を持った人もいると思う為、学外実習やインターンシップは、ゲームシナリオやライター分野を視野に入れるのもよいと思う。 ・災害対策カードについては、定期的に内容と対応方法の周知機会を設けた方がよいと感じた。	4

基準7 学生の募集と受入れ

コ メ ン ト	評 定
・校名変更のリニューアル感が薄い。 ・大学を含む他校から、又は社会人からの入学検討者への門戸の開放、受け入れ体制の告知などを行っても良いと思う。 ・学校説明会、相談会は対面式に加えオンライン形式を導入して新しいハイブリッドな募集活動を実施していることは評価できる。 ・高校によっては、学校や進路指導担当者の方針で大学進学指向が強く、教員や保護者に専門学校やエンタメ業界について情報が届いていないと感じる。 ・県外や遠方からの入学希望者対策として、オンライン説明会や遠方在住の独自説明会開催、オンライン面接は有効だと思う。今後も、オンラインで可能な内容に関しては継続して実施してほしい。	4

基準8 財務

コ メ ン ト	評 定
・学校単位の財務状況も役職者等も意識すべきである。	4

基準9 法令等の遵守

コ メ ン ト	評 定
・学生のコンプライアンスの意識づけは行なっているのか？ ・(事務局より)一部学科で「ネットリテラシー講座」や選択科目で「著作権講座」を実施している。 ・SNS等の意識づけを全学生向けに実施して、問題が発生した際に対策を行っていた事を示した方が良い、	4

基準10 社会貢献・地域貢献

コ メ ン ト	評 定
・社会貢献・地域貢献、業界団体への貢献は積極的に行うべきである。またそれを外部にしっかりと発信することも必要である。 ・留学生の受け入れ体制の拡大、充実のみならず、様々な分野で海外に目を向ける若者が増えた事が実感される為、卒業生の海外進出の橋渡しやチャンスメイクを提供できると良い。 ・ボランティア活動に関しては積極的な奨励や斡旋ができていないことが課題である。 ・ボランティアは自発的に手を上げるのもハードルが高いので、講座を設けるのは有効な手段である。学生からの働きかけの方が参加者が増えると思うので、無理のない範囲で在学生に推進者を作ってもいいと思う。	3

所感

・2025年4月の校名変更という大きな転換期に向けての2023年度の目標という観点から見ると、物足りなさを感じた。 ・良く考えられて運営されていると思います。 ・昨年度、課題となって示されたことを同じく課題としているところがいくつかありました。学校組織を素早く動かすのはなかなか難しいと思いますが、少しでもその課題に対して対応できるといいかと思います。 ・自分が在学生だった時に比べて体制などが変わっている部分が多く、時代による学生層の変化を感じた。
--

以上